

3

急性中耳炎（耳鼻科）

ここでは、保護者に知っていただきたい急性中耳炎のお話をします。

中耳炎はなぜからおこる

急性中耳炎は、多くの場合鼻の奥にある耳管を経由して、中耳に細菌やウイルスが侵入して起こります。鼓膜は細菌やウイルスを通さないのので、耳の中に水が入ったりしても鼓膜に穴が開いてない限り、中耳炎になることはありません。小児は耳管が太く、短く、角度が緩やかなため病原体が中耳に入り込みやすいのです。

中耳炎の主な症状は耳の痛み

中耳炎の最初の症状は耳がつまった感じですが、膿が中耳の中で増え続け鼓膜を圧迫すると激しい耳痛が起こります。鼓膜が膿の圧迫に耐え切れず破れると耳漏（耳だれ）が出てきます。耳漏が出ると耳痛は急に軽くなります。発熱は必ず起こるわけではありませんが、乳幼児で原因のわからない熱が続くときは、中耳炎を疑ってみる必要があります。また乳幼児の場合は不機嫌や食欲不振の原因が急性中耳炎であることもあります。

鼓膜を切って膿をだすことも

急性中耳炎は寝ているときに悪化することが多いのです。嚔

下（つばや食べ物をのみこむこと）をすると中耳の中の膿が耳管を通して鼻の奥に流れ出ます。寝ているときは嚥下の回数が減るので、膿が中耳から出にくくなるのです。夜急に耳が痛くなったら、応急処置として痛み止めを使用し、嚥下の回数を増やすため10分か20分ほど何か飲んだり食べたりすると良いでしょう。また痛い方の耳を上にして寝たほうが膿が出やすくなります。病院では薬（抗生剤など）を使って中耳炎を治しますが、症状がひどいとき、症状が長引くときは鼓膜を切って膿を出すこともあります。

急性中耳炎にならないためには

もし、かぜをひいたらあまり強く鼻をかまない、よく体を休めて早くかぜを治すといったことも大事です。また、乳児は飲食物が鼻のほうに入りやすいので、寝転んだかっこうで哺乳を行うと細菌やウイルスが中耳に侵入し急性中耳炎になりやすいので避けたほうがよいでしょう。

胃の内容物の逆流も関係しているという報告もあるようで、「頭位性中耳炎」「ミルク性中耳炎」と呼ばれることもあります。

急性中耳炎のなりやすさは、耳管の角度や耳管の出口の位置など解剖学的要素が大きいのです。親子などで顔が似ている場合は、その奥の耳管の形も似るため、顔が似た両親がよく急性中耳炎にかかったという人は急性中耳炎にかかりやすいと考え、注意する必要があるでしょう。